

「持続可能な米づくりの確立」の進捗状況

農山漁村振興課

○令和4年度末の進捗状況

(1) 主食用米の生産面積は、従前からの農地中間管理事業をベースとした取組により、水稻の担い手への集積面積は7,243ha、全体の45.0%のシェア率となりました。

○主食用米担い手シェアの進捗状況

		H30	R1	R2	R3	R4
農地中間管理事業集積面積	(ha)	410	407	752	391	374
主食用米に換算(*70%)	(ha)	287	285	526	274	262
担い手の主食用米生産面積	(ha)	5,896	6,181	6,707	6,981	7,243
主食用米の担い手シェア実績	(%)	34.3%	36.6%	39.9%	42.3%	45.0%

(2) 低コスト生産の実現については、国や県の補助事業を活用した低コスト機械の導入が進み、各地域で農業用ドローンを活用した広域的な防除や、中山間地域におけるリモコン草刈機、高密度で播種・育苗する技術が広がっています。

しかし、低コスト機械の導入は進んでいるものの、資材・光熱費の高騰や低収量の影響で、生産コスト9,600円/60kgを達成できた担い手は全体の4.2%にとどまっています。

○導入技術の内訳

高密度播種育苗	ドローン	リモコン草刈機	アーム式モア	直播き	自動給水システム	自動操舵
60	101	23	20	31	6	27

(3) コスト削減効果のある多収穫米の普及・拡大に向けて、令和3年3月に「島根県多収穫米推進協議会」を設立しました。令和4年度は、「つきあかり」と「にじのきらめき」の2品種に絞り、県内16カ所での実証栽培、販売先への求評を実施しました。

「つきあかり」は県内で43haで栽培され、令和6年度には300haの栽培を目指しています。

